

2020年最初の企画展は3月、神楽坂にて

～タイ北部・チェンマイで作る 心地よい衣類とくらしの小物～

バーンロムサイのくらし展

3月13日(金)～18日(水)

「バーンロムサイのくらし展」は今年も神楽坂の大きなイベントであり、ついに「くらしの小物」が紹介されます。

AYUMI GALLERY 〒162-0805 東京都新宿区矢来町114

banromsaiプロダクツは以下の店舗でご購入いただけます。

■ banromsai online shop
https://www.banromsai-shop.com/

■ banromsai kamakura shop
〒248-0014 神奈川県鎌倉市由比が浜 1-10-3

■ banromsai hoshihana shop
at cottage resort hoshihana village
246 Moo 3 T.Namprae, A.Hangdong, Chiangmai 50230 Thailand

■ banromsai shop at Siam Takashimaya 4F
299 Soi Charoen Nakhon 5, Charoen Nakhon Road, Khlong Ton Sai, Khlong San, Bangkok 10600 Thailand

Facebook: @banromsai Instagram: @banromsai

各地で開催される企画展情報はBanRomSaiホームページをご覧ください。



2019 banromsai プロダクツ企画展

昨年も多くのギャラリー、店舗の方々のご厚志により下記の企画展を開催させていただきました。お世話になりました御先様、ご協力いただいた団体の方々、そしてご来場くださいました多くの皆さまに心より感謝し、お礼申し上げます。(敬称略 / 会期順)

東京・神楽坂 / AYUMI GALLERY ● 沖縄・那覇 / AKOH KLOH ● 兵庫・神戸 / AO ● 長崎・波佐見 / monné porte ● 岡山・岡山 / nei natural-life ● 大阪・池田 / café & gallery Phteah ● 東京・三鷹 / デイリース ● 長野・松本 / MARKET+ ● 東京・渋谷・大阪・梅田 / IDÉE SHOP VARIÉTÉ ● 鳥取・米子 / 青杏+ ● 岐阜・八百津町 / susuham ● 東京・六本木 / J-WAVE リスナーズマーケット ● 北海道・札幌 / Siesta Labo. ● 東京・新宿 / 高島屋新宿店 ● 鹿児島・加治木 / ギャラリー Do-Ma ● 神奈川・横浜 / 高島屋横浜店 ● 京都・木津川 / Lier 幡 ● 長野・信濃町 / モトホンヤ ● 東京・吉祥寺 / アムリタ食堂 ● 愛知・名古屋 / 薬草 labo. 棘 ● 福岡・うきは / ぶどうのたね ● 福島・福島 / うえき 和・空間 ● 秋田・秋田 / 小松クラフトスペース ● 東京・日本橋 / 高島屋日本橋店 ● 長崎・島原 / アートボタカセ ● 北海道・札幌 / ヒンガタ文庫 ● 東京・荻窪 / Art+stellas 器物家 (アステラス どうぐや) ● 愛知・飛鳥村 / united bamboo ● 北海道・白老 / haku hostel+café bar ● 東京・銀座 / 伊東屋 ● 奈良・奈良 / Punchi Lamai ● 東京・恵比寿 / アルフレックス 東京 (W STYLE Charity Market) ● 神奈川・葉山 / Bookshop Kasper

日本国内で開催されるイベント情報はBanRomSaiホームページでご案内しています。

タイ・バーンロムサイ財団 会計報告		2018年9月1日～ 2019年8月31日
収入	NPO法人バーンロムサイジャパンからの寄付金	12,406,200円
	タイ国内からの寄付金	2,949,551円
	その他寄付金	998,563円
	収入合計	16,354,314円
支出	教育関連費	250,135円
	生活関連費	4,857,433円
	医療費	63,040円
	ホーム人件費	7,484,015円
	ホーム運営費	1,037,698円
	修繕費・光熱費	755,522円
	遠距離通学のための車両費	783,588円
	雑費その他	931,290円
	支出合計	16,162,728円
当期収支差額		191,593円
※医療費に関連して、国際NGO OXFAMより抗HIV剤ならびに3か月に1度の検査について支援を受けています。(1パーツ=3,48円)		

2019年9月20日から24日まで、銀座伊東屋にて BanRomSai Children's Home 開園20周年記念イベントが開催されました。

開園20周年を迎えた2019年。「+art」の一環として山口洋佑氏がホームを訪れ、描き下ろしてくださいましたバーンロムサイの「今」を会場いっぱいに展示したほか、banromsai の衣類や小物の販売、子ども達の近況や活動報告をさせていただきました。見に、聞きに、買いにきてくださった皆さま、ありがとうございました！



日本スタッフと創設者名取美和と山口さんをかこんで



山口さんと子ども達のワークショップ

山口さんが滞在を通して制作してくださった絵本「星と花の庭」。不思議なエネルギーに守られたこの場所で紡がれる物語が色彩豊かに描かれています。



バーンロムサイ開園
20周年記念絵本「星と花の庭」
バーンロムサイオンラインショップでも
ご購入いただけます

まだまだみなさまの応援が必要です。

バーンロムサイでは寄付だけに頼らない運営を目指し、"家業"としてコテージリゾート運営やものづくりに取り組んでいます。多くの方にご協力いただき、コテージの棟数を増やしたり、企画・生産管理において工夫を重ねるなど収入を増やす努力を続けていますが、今後活動を発展させ、また卒園生のサポートを続けていくにあたり、まだまだ皆さまからの応援が必要です。

● マンスリーサポーター / 賛助会員になる
毎月1,000円からご支援いただくマンスリーサポーターや年会費制(個人会員 / 1口10,000円、企業・団体会員 / 1口50,000円から)の賛助会員があります。
https://www.banromsai.jp/supports/

● 寄付をする
1回ごとのご寄付もお受けしております。お支払い方法等については下記をご覧ください。
https://www.banromsai.jp/donation/

● Yahoo! ネット募金で寄付をする
Tポイントで1ポイントから寄付ができるYahoo! ネット募金。クレジットカードでの寄付もできます。
https://donation.yahoo.co.jp/detail/5231001/

BanRomSai Children's Home (Banyan Home Foundation) 23/1 Moo 4 T.Namprae, A.Hangdong, Chiangmai 50230 Thailand Tel.+66-53-022245 Fax.+66-53-427434

2020

年も明け、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

日本は平成から令和へ、バーンロムサイも新たな年号と共に20周年を迎え、気持ちを新たにしております。

時代の変化に左右されながらも、子どもたちは成長し、様々な活動にも取り組んできた20年。そんなバーンロムサイの近況を昨年9月に開催した開園20周年記念イベントにてご報告できたことを大変嬉しく思っています。これもひとえに皆さまのご支援と温かいサポートのおかげと、改めて感謝申し上げます。

支援者の皆さま、子どもたち、スタッフたちとも、ありがたいご縁に恵まれ、目に見えないけれども必然的な巡り合わせのもとに今があるのだと感じています。全ての物事が繋がっていると思うと、あらゆる人々、出来事が同時進行しながら大きな流れに乗った奇跡的な確率の「今」があるのはとても不思議なこと。皆さまとのご縁が優しさや幸せを生み、多くの気づきにも繋がっています。ご縁やつながりを大切に、スタッフ一同力を合わせてこれからもバーンロムサイを育んでいこうと思います。

ボランティア活動から始まったバーンロムサイですが、チルドレンズホームの自立した運営を目指して始めたものづくりやコテージリゾートも、子どもたちと共に少しずつブランドとして成長しています。これからも日泰国際結婚のような大きな家族バーンロムサイと、私たちの家業<ものづくり>と<ホシハナヴィレッジ>を温かく見守っていただければ幸いです。

NPOバーンロムサイジャパン 名取美穂

BanRomSai Newsletter [dee]

ディーは「いいね!」という意味のタイ語です。

NPO法人バーンロムサイジャパン 〒249-0005 神奈川県逗子市桜山 7-3-32 tel.046-876-6209 fax.046-876-6219

january

●イム、タイタン、ピーマイ 初めて母親に面会

出所した母親から面会希望があり、外で面会。ピーマイは「この人はお母さんじゃないー。私のお母さんはメーレック(保母)」と大泣き。3人とも母親の記憶は無く、親としては切ない気持ちだったと思いますが、まだ引き取る環境が整っていないので、3人はこれからまだまだバーンロムサイで暮らすことになります。

子どもがバーンロムサイにいることは、実の親であっても知らせません。親が突然ホームに来て、子どもを連れ去るようなことがあっては困りますし、親がいない、いても会えない他の子どもの気持ちを考えて、親、親戚との面会はホームの外で行うことにしています。



●ベン、ベン大学合格

ベンとベンが推薦入試を受けチェンマイラチャバット大学の人文社会学部コミュニティ開発学科に合格。この大学には卒園生のガソックも通っています。

february

●ドーム母親と面会

●オームシン体調不良のため入院

●タイ暑季入り



march

●オームシン小学一年留年決定

留年制度があるタイ。オームシンは小学校に入ってから、特にめんどくさがるの性格が現れ、宿題をやらない、出さないという態度が目立ちました。本当に書けないのか、言われて書くのが嫌だったのか分かりませんが、本名も書けませんでした。2年生に上がるには学力が足りないということで、小学1年生を留年することになりました。

●3月中旬～5月中旬：夏休み

●ベン、ジンダー、ニサーがホシハナ

アーバイが縫製場でアルバイト(約1ヶ月)

学年が上がる長い学期休みを利用して、中・高生の女の子4人が縫製場とホシハナヴィレッジでアルバイトをしました。

アルバイト代を受け取るアーバイ



ホシハナヴィレッジも縫製場も、ホームの自立した運営のために、という理由に加え、卒園した子どもたちの職業訓練や就職先にもなればという思いと共に始めたバーンロムサイの「家業」。現在ホシハナヴィレッジでは4人の卒園生が働いておりホームで生活する子どもたちも、長期休みにはアルバイトというかたちで関わっています。このような機会を通し、子どもたちの自立につながるようタイ人・日本人スタッフ共に連携し、工夫しています。今回初めて実施したのは、1人ずつアルバイトに行くというスタイル。これまで同じ時間帯に2、3人一緒に行っていたのですが、それだとやはり子どもたちだけで固まってしまうたり、静かな子が、自分で話せる子に頼ってしまったりするということがあったから。1人なら、何でも自分で考えねばならず、分からないことは自分で聞かなければなりません。最初は戸惑いもあったようですが、みんな立派に自分の役割を果たしました。

april

●アートカフェで陶芸体験

近所のアートカフェで陶芸体験をさせていただきました。



●浦和レッズハートフルサッカー

ロムサイFC 発足のきっかけになった浦和レッズのハートフルサッカー。ハートフルクラブのコーチ陣が定期的にバーンロムサイを訪問し、子どもたちにサッカー指導をしてくださっています。スポーツに大切なのは、こころ。相手を思いやる心を育む指導をしてくださいました。

●ロムサイFC、ロムサイVC チェンライ合宿

●4月13日 プール初泳ぎ

子どもたちの夏休みの楽しみの一つは、ホシハナヴィレッジのプールで泳ぐこと。有り余るエネルギーをプールで発散させました。

HIVに感染していることが理由で公共のプールに通うことが出来なかったバーンロムサイの子どもたち。その話を聞いた支援者の寄付でホームに隣接する土地にプールができ、さらにプールの周りに宿泊施設があればこの素敵な場所をもっとゆっくりと楽しんでいたなのに、という思いがコテージの寄付という支援につながり…ホシハナヴィレッジの物語はこうした支援者を中心とした多くの goodness に支えられスタートしました。



●ソングラーン期間中 ホームの庭で水かけ

タイのお正月、ソングラーン。年長者に前年の非礼を詫び、感謝の気持ちを伝えながら聖水を手にかけるとい風習があります。それが今では盛大に水をかけ合って楽しむ「水かけ祭り」となっています。4月は1年で最も暑いので、水遊びが楽しい季節。大きい子どもが多かった頃は、旧市街の水かけに参戦していましたが、今は小さい子どもが多いので、庭や家の前で水をかけ合って遊んでいます。



●アイスクリームの差し入れ

事務所スタッフ、ノイさんのご主人からアイスクリームの差し入れをいただきました。アイスクリームの会社にお勤めで、アイス屋さんの本格的なクーラーに入ったアイス! 昼に、夜に、何回にも分けてみんなでおいしくいただきました。



●ダムファ

ソングラーンの時期にはダムファという儀式を行います。前述の年長者の手に聖水をかけて感謝の気持ちを伝える儀式です。今年は、バーンロムサイ開園 20 周年の年ということもあり、卒園生が大勢参加してくれました。



●おにぎりワークショップ

唐揚げ店のオーナーさんが、子どもたちのためにおにぎりワークショップを開催してくださいました。鶏のから揚げで、天むすならめ、から揚げおにぎりを作る予定でしたが、子どもにはちょっと難しそうだということで、普通のおにぎりを作り、おかずは唐揚げをいただきました。まんまるおにぎりがたくさんできました。



写真日記: www.banromsai.jp/photo_diary/

バーンロムサイの一年<2019>

www.banromsai.jp

may

●チョーク、チャイ、ノン兄弟、

モーモー、サーサー姉妹、それぞれ親戚のもとへ

チョーク、チャイ、ノン三兄弟とモーモー、サーサー姉妹がそれぞれおばさんに引き取られていきました。基本的にバーンロムサイの子どもは18歳で卒園しますが、それまでに何らかの理由で出て行くこともあります。親戚から引き取りの希望があった場合、国立孤児院の審査を受け、通れば子どもたちは家族のもとに帰ります。男子三兄弟は、分かっているのかいないのか「じゃあねー! バイバイ!」と楽しそうに出ていきました。モーモー、サーサー姉妹は、バーンロムサイのお母さんお父さん、兄弟たちと別れるのがつらくて、引き取られる事を伝えた時から、ずっと泣いていました。小学校3年、4年に上がる年なので、友達と離れるのは特に寂しい年頃。ましてや、物心ついた時からずっと過ごしている「家」から知らない場所に行くのはとても不安だったのでしょう。別れの朝は全員涙腺で見送りました。しかし、数週間後にはすっかり新しい生活にも慣れたよううでテレビ電話をかけてみると、とびきりの笑顔が見られました。モーモーは、行った先の方でみんなを笑わせてくれました。



●ブリーラムで行われた「浦和レッズ 対 ブリーラムユナイテッド」の試合観戦

子どもたちもスタッフも、みんな大好きな浦和レッズ。タイ国内で試合があるということで、特別に席を用意していただき、ロムサイFCのメンバーで観戦に行きました。二泊三日の大冒険。プロの試合を目の前で観戦し、子どもたちもたくさんの刺激を受けました。サッカーの指導をしているスタッフのダムは、将来ロムサイFCの中からプロサッカー選手が出ることを夢見ています。



●新学期(前期)始まり、タイ雨季入り

●日本人美容師さんたちによるヘアカット

日本人美容師さんたちが、ボランティアで子どもたちのヘアカットをしてくださいました。タイには「生徒カット(ソナックリアン)」という髪型があり、学校に通っている子どもたちはみんな同じ髪型。男子は、横は刈り上げ、上を少し残すスタイル。女子はおかつばです。女の子は髪を伸ばしても良いのですが、きちんと結わねなければなりません。バーンロムサイでも自分でできる年齢の子は髪を伸ばしていますが、小学生以下は全員おかつば頭。普段は保母が切っていて、それも相当な腕前ですが、やはりプロの美容師さんに切ってもらおうとおかつば頭もおしゃれに見えるから不思議です。



●新しい子どもの受け入れ(ソーン、マイ、デー、ノーベル)

国立孤児院から新たに4人の子どもを受け入れました。ソーンとノーベルは一人っ子、マイとデーは姉弟です。どんな子でも、来たばかりの時はとても緊張していますが、それぞれのペースでたくましくバーンロムサイでの生活に馴染んでいきます。もともといる子どもたちの人間関係が微妙に変化していくのもおもしろいところ。



●ベン、ベン ホームを出て一人暮らしの部屋へ

ベンとベンが一人暮らしの部屋へ引っ越していきました。これから楽しい楽しい大学生活が始まります。



以前は、中学卒業後、定時制高校に通いながら働く子どもや専門学校に行く子どもが多かったのですが、最近は大学進学を希望する子が増え、現在4名の卒園生(ナット、ガソック、ベン、ベン)が大学に通っています。バーンロムサイでは、就学中の子どもたちの学費、生活費を支援しています。特に初期の子どもたちの多くは親をAIDSで亡くしており、HIVに母子感染していない子でも、親が亡くなっている、または様々な事情で一緒に暮らしたり、頼ったりすることは期待できない場合がほとんどです。私たちはこれからも就学支援というかたちで、卒園生の支援を続けていきたいと考えています。また、学業だけでなく、事故や病気や困った時にも、精神的、金銭的な支援を行っており、卒園生する人数が増えていくなか、子どもたちの実家としての役割も大きくなっていると実感しています。卒園生の就学、緊急事態を支援するための資金確保も大切になってきました。

june



●家庭菜園

家庭菜園を始めました。10月には 25 キロもの空芯菜を収穫、ホーム・縫製場・ホシハナヴィレッジのまかないに。子ども達の食育にもつながっています。



●土地の神様のお祀り

毎年北タイの風習に従い、土地の神様をお祀りします。ガジュマルの木、ホシハナヴィレッジ、大工オフィス、日本人スタッフ住居にある祠にお供え物をし、お参りました。

9は「歩く、進む」という単語と発音が同じことから、タイでは縁起の良い数字とされています。結婚式やお店のオープン式典などを9時9分9秒から始めることが多く、この土地の神様のお祀りも、9時9分に始めました。

●ウッディー フランスへ

8歳になったウッディーがフランス人家族の養子となりバーンロムサイを旅立ちました。2017年6月に入園したウッディー。ホームで過ごした期間はちょうど2年。来たばかりのころは色白で、ひよρόとした印象でしたが、サッカーの練習が大好きで、体も心も強く成長しました。今はフランスの新しい家族と幸せに暮らしていることでしょう。



july

●魚釣り

以前はホシハナヴィレッジ裏の貯水池によく釣りに行っていたのですが、小さい子どもが多くなってからご無沙汰にその小さかった子たちも大きくなり、保父のコムさんが選抜した数人で久しぶりに釣りを再開。細く切った竹を竿にし、大人の掌ぐらいの魚が釣れました。



october

●10月中旬～11月初旬：秋休み、乾季入り

●ロムサイFC チェンライ合宿

青少年サッカープロジェクト(ロムサイ FC)の活動の一環として、学校の長期休みにはチェンライに6泊7日の合宿に行っています。ナンプレー村の男の子たちも一緒に合宿は、みんなが楽しみにしている行事です。朝から練習し、地元チームとの交流試合も行います。回数を重ねて有名になったのか、参加チームの保護者たちも観戦に来る一大イベントとなっています。練習、交流試合、共同生活を通して、身体的にも精神的にも成長してほしいと願っています。(女子バレーボールプロジェクトは活動資金が集まらず7月から活動休止中)



もともとホームの子どもたちの体力作りのために始めたサッカーでしたが、徐々に村の子ども達の参加も増え、今では総勢 40 名のチームに。開園当初差別と偏見で村人から敬遠されていたバーンロムサイが地域の人たちにも受け入れられていくための重要な活動の一つとなりました。「公共プロジェクト」と呼ばれている活動は上記以外にも図書館プロジェクトや山岳民族支援プロジェクトがあります。

●女子さき織りワークショップ

日本人アーティストによる3日間のさき織りのワークショップでは、裂いた布をうちわの骨に手で織り付けて、世界に一つだけのうちわを作りました。1人1人の個性が見える創作活動、幼稚園年長組のイムは特にアート系に興味があるようで「楽しい、楽しい。きれいに作りたいから一生懸命やるんだ」と言いながら没頭。3歳のノーベルもお姉ちゃんたちに手伝ってもらいながら、一心不乱に布を引っ張っていました。



●アーバイ、ネンが縫製場でアルバイト

アーバイ(中3)とネン(中2)が秋休みに縫製場でアルバイトをしました。高校生は、休みが短かったため断念。

2回続けて縫製場でアルバイトをしたアーバイ。ミシマー人であるため、これから先、進学や就職の際には厳しい状況に置かれることが予想されます。将来、本人が望んで縫製場やホシハナヴィレッジで働くことになればいいのですが、今はまだ中学3年生。そこまで先のことは考えられないと思いますが、まずはアルバイトで貴重な経験を積みました。

●女子日帰り遠足

男子のチェンライ合宿中に女の子も日帰り遠足に行きました。湖の周りに藁で作った巨大なキングコングなどのオブジェがあるタイ人に人気の観光地。湖に張り出した小屋でお昼ごはんを食べたり、湖で泳いだり、写真もたくさん撮って、楽しみました。



●10月下旬 新学期(後期)始まり

●ローイクラトン

タイで旧暦12月の満月の夜に、川に灯籠を流し、水の様様に感謝するお祭り。子どもたちは学校で灯籠を作ってきて、夜近所の川に流しに行きました。



november

december

●山岳民族物資支援プロジェクト

チェンマイ県南部に位置するオムゴーイ郡の村に支援物資を届けるプロジェクトを行っています。厳しい環境下に暮らす山岳民族の人々に必要な物資を届ける以外にも、子どもたちが参加する事で自身の視野を広げ、困っている人に手を差し伸べ、自分で考え、自然と行動できる人になってほしいという願いを込めています。